

I 平成29年度事業報告書

(平成29年4月1日から平成30年3月31日まで)

当財団は、県民が主体となった地域社会の形成を促進するため、NPOやボランティア、生涯学習をはじめとする県民の諸活動の支援、高齢者の生きがいづくりや地域参加の促進及び就業機会の提供に関する事業を行い、あらゆる世代が共に支え合う豊かな埼玉の発展に寄与するという社会的使命を有している。

県民活動の支援に関する事業では、NPOの運営やボランティア養成に関する講座を県内各所で実施するとともに、NPO・ボランティア活動の中核となる「彩の国市民活動サポートセンター」を運営し、県民への情報提供やネットワークの推進を図った。また、指定管理を行う県民活動総合センターを核として社会的課題からコンサートまで多様な学習ニーズに応える事業を実施した。こうした学びの場の提供と併せて、生涯学習の成果が地域に還元されるよう市民講師の養成や活用促進を図るなど多角的に取り組んだ。

さらに、県民活動総合センターが様々な人々の活動の場として利用いただけるよう、地域や企業、団体等と連携した特徴的なイベントの実施や、広報の充実、適切な管理運営による利便性の向上に努めた。

高齢者のいきがいづくりや地域参加の促進を図る事業では、彩の国いきがい大学を運営し、新たな仲間づくりとともに地域で活躍できる人材の育成を図った。この他にも、高齢者の健康の維持増進や世代間交流を目的とした講座の実施や活動団体の支援を行った。

また、就労意欲のある高齢者の就業や能力の活用促進に関する事業では、高齢者のいきがい就労支援の拠点である地域のシルバー人材センターからの相談対応、研修などを通じ、運営基盤の強化を促進した。

さらに、現代のシニア層の変化に応じたシルバー人材センターのイメージ転換を進めるとともに、多様な就業機会を提供するため、派遣先企業の開拓、人材の発掘に努め、派遣事業の拡大に取り組んだ。

I - 1 事業の概要

1 県民活動の支援に関する事業

(1) 県民活動支援のための講座の開催

ア NPO活動やボランティア活動を支援するため、市町の市民活動サポートセンターや大学と連携し、ボランティアを養成する講座やNPOの運営について学ぶ講座を県内各地で実施した。

イ 時代の要請に応じた講座や趣味に関する講座、スポーツに関する講座などを実施するとともに、企画展と連動した「山下洋輔ソロピアノ」や「日本フィル弦楽四重奏」などのコンサートを開催した。

ウ 生涯学習の成果として習得した知識や技能を地域に還元できるように市民講師を養成する講座を実施するとともに、市町村生涯学習施設での活動の場の提供、スキルアップのためのセミナー等を実施した。

(2) 県民活動団体への支援

県民活動団体の活動が一層活発なものになるよう、子育て支援を行うNPOやボランティア団体等と協働で「子ども夢未来フェスティバル」などの事業を実施した。

(3) 彩の国市民活動サポートセンターの運営

NPO活動やボランティア活動に関する情報提供・相談を行うとともに、「埼玉市民活動サポートセンターネットワーク」事務局として市町の市民活動サポートセンター職員を対象に研修会を実施し、関係団体とのネットワークの強化を図った。

(4) 埼玉県県民活動総合センターの運営

埼玉県県民活動総合センターの指定管理者として、施設を適切に維持管理し、利用に供した。1階北側出入り口の改修（自動ドア化）や、パソコン研修室のOS・ソフト更新、地元で人気のパンケーキの販売など、施設の利便性を高めた。

広報・営業活動を推進し、インバウンド誘客にも努め、中国大学生友好交流訪日団の宿泊受入の際には和茶室での茶道体験を行った。

壁面タイル改修工事に伴う一部施設の貸出停止の影響等により、貸館利用者は減少したが、閑散期のイベントを拡充するなど賑わい創出に努め、全体の利用者数は前年度を上回った。

また、財団が実施している彩の国いきがい大学事業、シルバー人材センター連合事業などと連携し、それぞれの事業効果がさらに高まる工夫を行った。

主な実施イベント	実施日	参加者数(人)
けんかつバラフェスタ	5月21日	4,600
けんかつ夏まつり	8月19日	6,000
彩の国いきいきフェスティバル	10月22日	19,000
けんかつ鉄道フェア	2月17日	14,000
子ども夢未来フェスティバル	3月18日	10,000

2 高齢者の生きがいづくりや地域参加及び地域貢献の促進に関する事業

(1) 彩の国いきがい大学の運営

高齢者が地域で活動するための知識や技術を習得する機会を提供し、地域活動のリーダーとして活躍できる人材を育成するため、県内各地で一般課程を5学園、専攻課程を6学園運営し、1,298人の高齢者の方々に学習機会を提供した。

また、約6,200人の卒業生組織（校友会）と連携し、いきがい大学の一部の講座を学生以外に開放し、広く県民に周知するため、著名な講師による公開講座や特別講座を開催した。

(2) 高齢者いきがい支援センターの運営

高齢者が集い、交流する「地域活動交流スペース」や高齢者の健康増進を支援する「健康サポートコーナー」の運営を行った。

また、高齢者の方々の作品の掲示及び即売の機会を提供し、創作活動への意欲の醸成を図った他、高齢者の健康の維持増進や世代間交流の促進を図った。

(3) 情報誌発行

アクティブシニアのための情報誌「あぷろく」を4回発行し、高齢者の生きがい、健康づくり及び社会参加活動に役立つホットな情報を提供した。

(4) 高齢者創作展の開催

絵画や写真など、高齢者の日頃の文化創作活動の成果を発表する場として、プラザノース（さいたま市）を会場に477点の作品を展示し、2,230人の来場者があった。

なお、優秀作品は、翌年度の全国健康福祉祭の美術部門に出品される。

(5) 全国健康福祉祭埼玉県選手団の派遣

高齢者の国体と呼ばれる第30回全国健康福祉祭（ねんりんピック）あきた大会に埼玉県選手団155人を派遣し、男子マラソン（5km、70歳以上の部）優勝、将棋団体戦準優勝など優秀な成績を修めた。

3 就労意欲のある高齢者の雇用・就業及び能力活用の促進

(1) シルバー人材センター・高齢者事業団の支援

財団は、埼玉県から指定を受けている「埼玉県シルバー人材センター連合」として、県内のシルバー人材センター・高齢者事業団の安全で適正な業務運営に係る支援を行っている。

平成29年度は、各センターの組織や事業の運営に係る助言、法律等の相談や、埼玉県との広域受注に係る調整、適正な経理事務の徹底に向けた会計監査などを行った。

(2) 労働者派遣事業の実施

高齢者の多様な就業機会を提供することを目的に当財団が主体となって実施する労働者派遣事業では、適切な事業運営のため派遣実施事務所との運営会議や実務者研修を7回開催し情報の共有化と担当職員の資質向上を図った。

また、厚生労働省からの委託を受け「高齢者人材育成講習」を26回実施し、会員の拡大、技能の向上を進めた。

この結果、総契約額15億2千万円、就業延人員29万8千人日まで伸長し、総契約額における全国順位は前年度の9位から4位に上昇した。

(3) 会員、就業機会の拡大に向けた普及啓発

シニアの意識が大きく変わる中、時代に即したシルバー人材センターの発信を図るため、テレビやラジオのメディアを活用したPRに努めた。

また、これまでにない切り口で女性会員の活躍、拡大にスポットを当てた取組として、女性会員を「*シルボンヌ」と名付けるとともに、女性役員による検討を経てシルボンヌを象徴する“スカーフ”を作成し、イメージアップの促進を図った。スカーフデザイン決定の様子はテレビ埼玉で放映され、東京都連合が視察に来るなど、全国をリードする取組として他県からも注目を集めている。

※シルボンヌ：「silver（シルバー）」とフランス語で女性の「お手伝い」、「親切」、「優れた」という意味の「bonne（ボンヌ）」を合わせた造語

(4) シルバー・ワークステーション事業の実施

会員の多様な就労機会の拡大を図るため、事務系職種や介護、保育、スーパーマーケット等の人手不足分野を中心に派遣先企業の開拓及び会員とのマッチングを推進し、新たな派遣契約858件、マッチング件数1,900件（人）を達成した。

また、「65歳からの生き方セミナー」を県内各地で3回開催し、シルバー人材センター会員となる人材発掘を行った。